

平成28年度

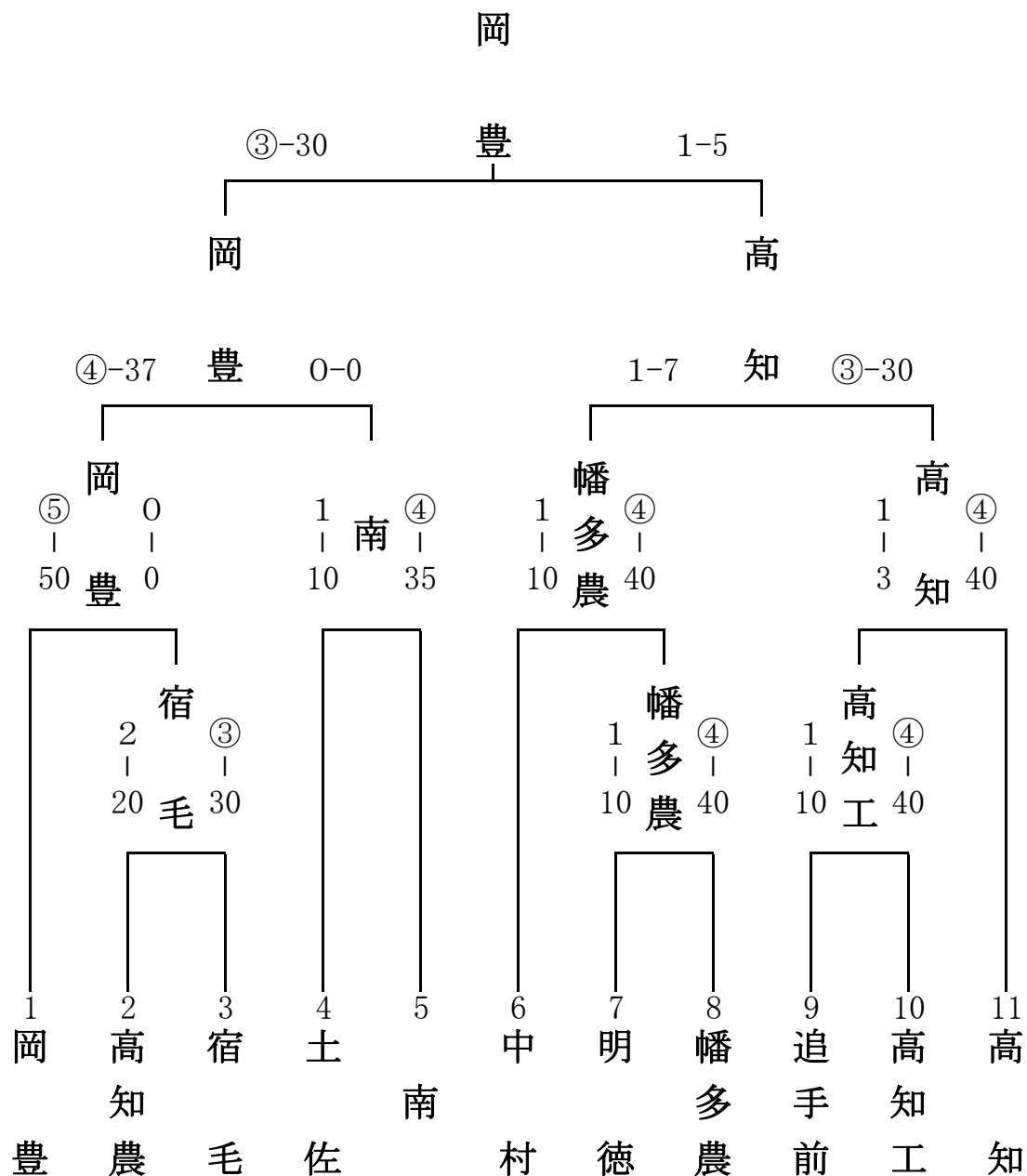
高知県高等学校柔道新人大会

試合結果

平成28年11月6日(日)

高知県立武道館

男子団体



女子団体

	1 高知	2 南	3 学芸	団体 勝数	勝数	得点	順位
1 高知		×	○	1	3	30	1 優勝決定 戦による
2 南	×		○	1	3	30	2
3 学芸	△	△		0	2	20	3

校名	南	2	○	20	-	10	△	1	学芸
先鋒	西川	⑩		不戦勝			△		
中堅		△		不戦勝			⑩		中村
大将	高橋	⑩		大	外	刈	△		岡田

校名	高知	2	○	20	-	10	△	1	学芸
先鋒	山本	⑩		不戦勝			△		
中堅		△		不戦勝			⑩		中村
大将	植村	⑩		合		技	△		岡田

校名	高知	1	×	10	-	10	×	1	南
先鋒	山本	△		合		技	⑩		西川
中堅		×		引		分	×		
大将	植村	⑩		合		技	△		高橋

優勝決定戦 (リーグ戦で勝ち数、内容等すべて同じ同率1位のため)

校名	高知	1	△	10	-	10	○	1	南
									代表勝⑩
先鋒	山本	△		上	四	方	固	⑩	西川
中堅		×		引		分	×		
大将	植村	⑩		合		技	△		高橋
代表戦	植村	△		三	角	絞	⑩		西川

男子団体

[準決勝]

校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表
岡	松	齊	上	門	吉	
豊	岡	藤	岡	田	本	
4	⑩	⑩		⑩	⑦	
○	不	合	引	合	優	
37	戦				勢	
					(
0	勝	技	分	技	技	
△)	
0						
南		尾	岡	桑	升	
		崎	本	原	田	

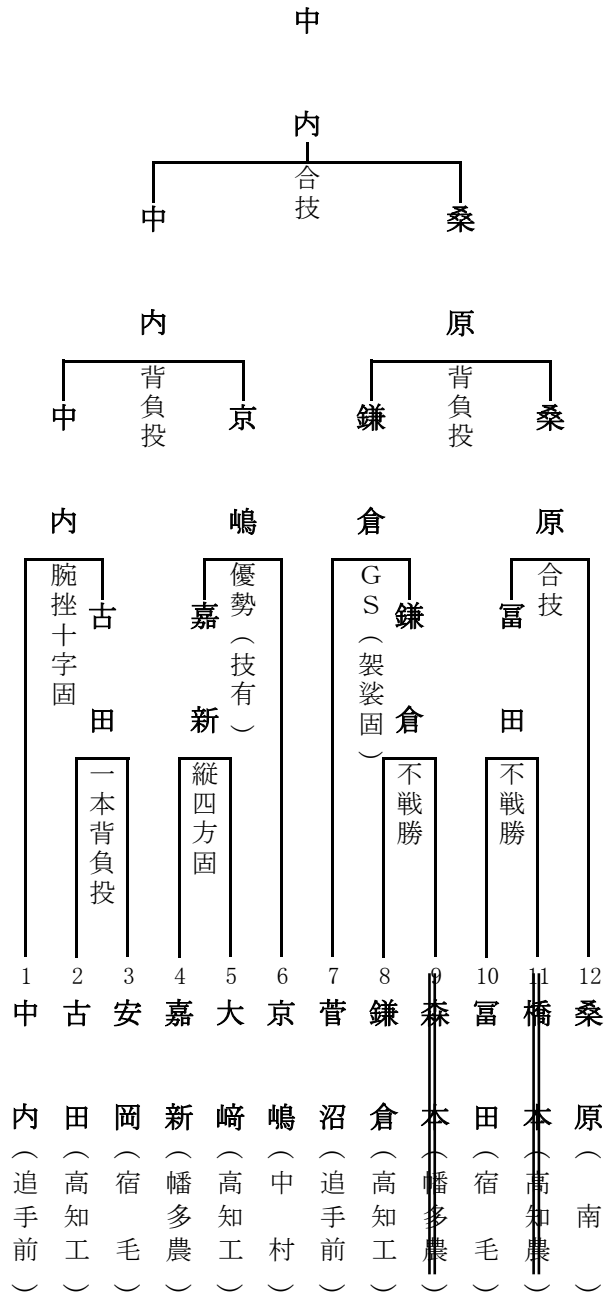
[準決勝]

校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表
幡	上	福	嘉	田	山	
多						
農	田	元	新	中	本	
1				⑦		
△	引	袖	内	優	一	
7		釣		勢	本	
		込	股	(背	
30	分	込		技	負	
○		腰)	投	
3		⑩	⑩		⑩	
高	西	金	北		石	
知	山	枝	村		原	
					村	

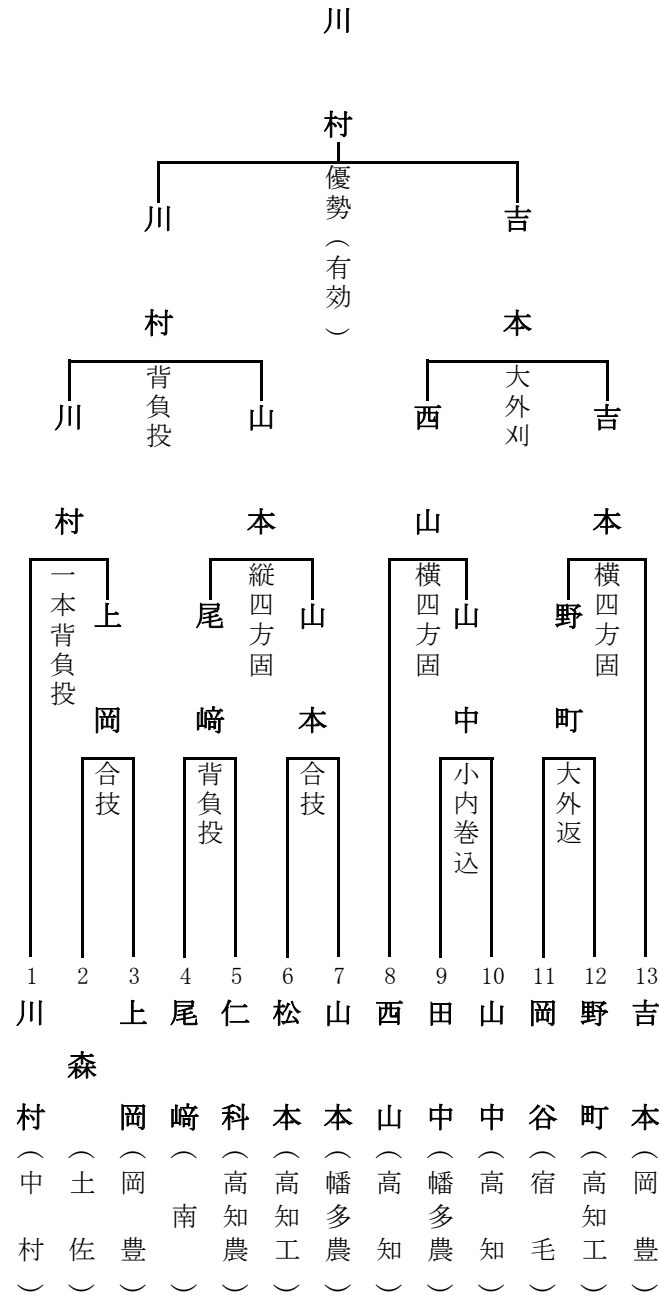
[決勝]

校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表
岡	松	齊	上	門	吉	
豊	岡	藤	岡	田	本	
3	⑩	⑩		⑩		
○	袖	縦	優	裏	引	
30	釣	四	勢			
	込	方	(投	分	
5	腰	固	有			
△			効			
1)			
高	西	金	北		石	
知	山	枝	村		原	
					村	

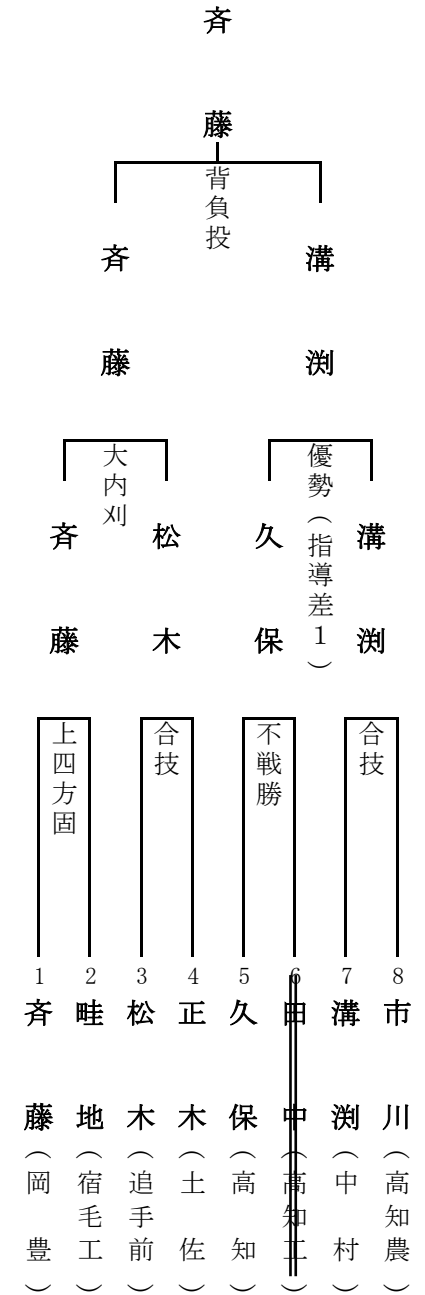
男子個人 60kg級



男子個人 66kg級



男子個人 73kg級

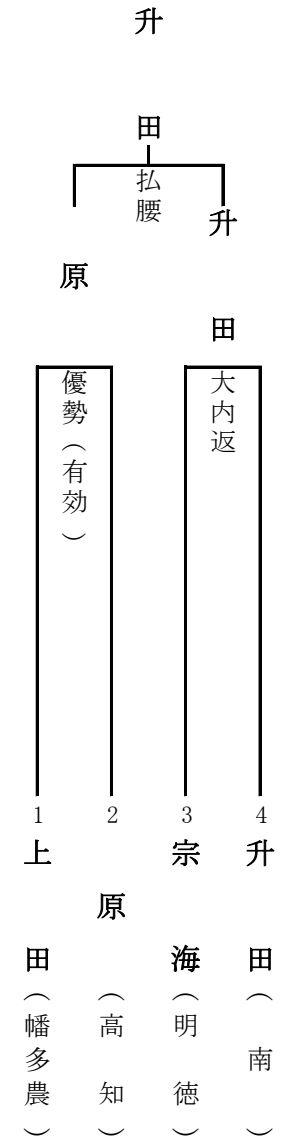
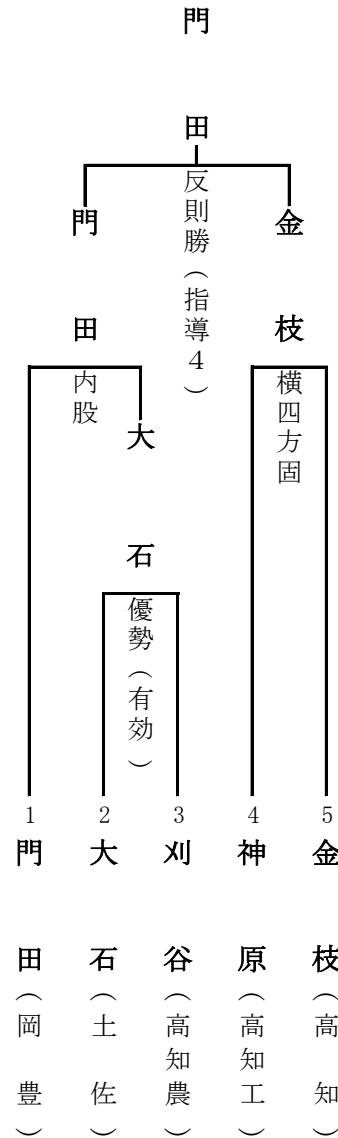
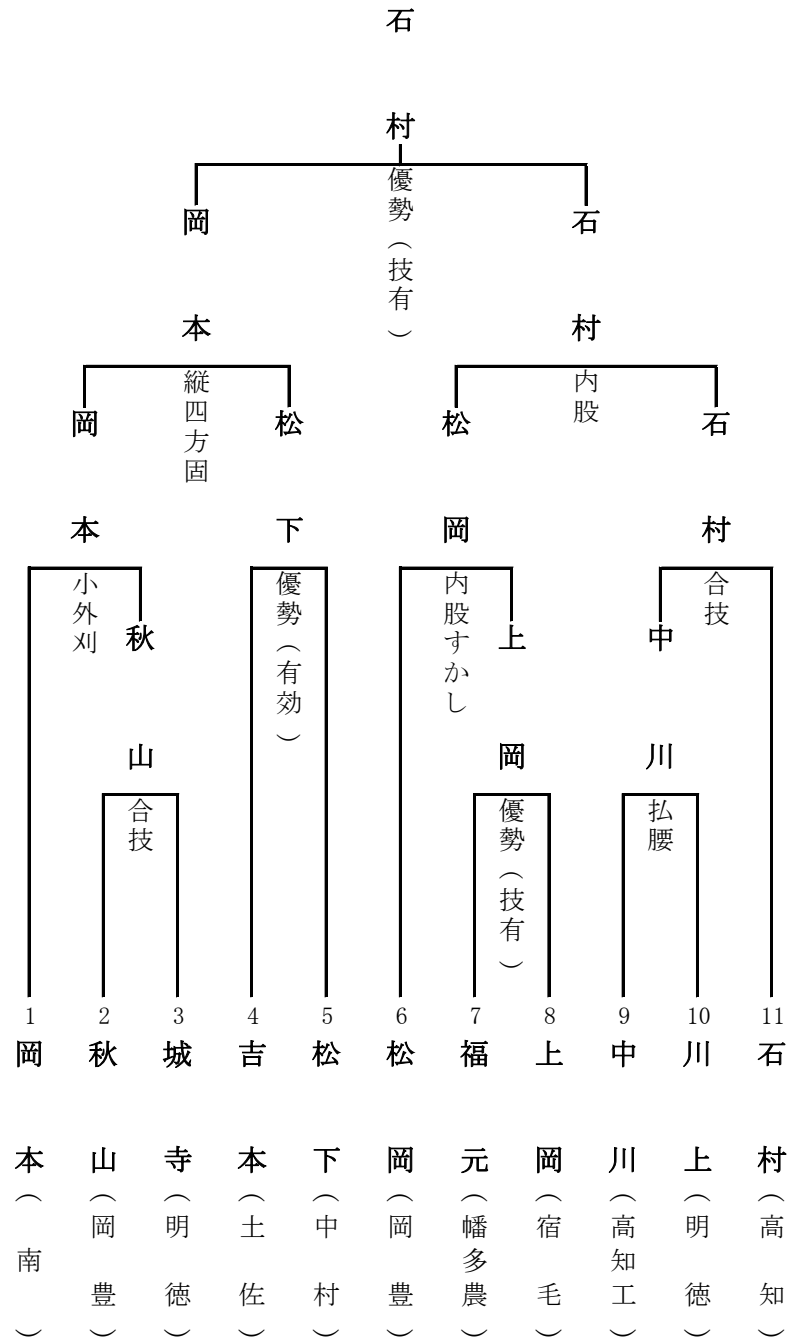


男子個人 81kg級

男子個人 90kg級

男子個人 100kg級

男子個人 100kg超級



女子個人

48 kg 級

出場者無し

52kg級

秋

田

1 秋

田 (土佐)

57kg級

西

川

縦四方固

西

川

1 西

川 (南)

背負投

岡

崎

2 岡

崎 (追手前)

3 中

村 (学芸)

植

村

4 植

村 (高知)

不戦勝

植

村

5 岡

田 (学芸)

6 山

本 (高知)

63kg級

片

岡

優勢 (有効)

1 片

岡 (丸の内)

2 高

橋 (南)

70kg級

小

崎

1 小

崎 (岡豊)

78 kg 級

出場者無し

78kg超級

西

村

1 西

村 (宿毛工)

MIND

「MIND」は英語で「精神」とか「心」という意味で、嘉納治五郎先生の教えの精神、柔道の心に立ち返ろうという気持ちが込められています。

同時に「MIND」は4つの単語の頭文字をつなげたものでもあります。

M	は	Manners、	礼節
I	は	Independence、	自立
N	は	Nobility、	高潔
D	は	Dignity、	品格

これら4つの単語を連ねたことには、柔道を行うものはこれら4つのことを守ってこそ「柔道家」と呼ばれるに相応しいのだということを明確に示そうという狙いがあります。

全柔連では昨年、「暴力の根絶プロジェクト」を立ち上げました。プロジェクトは山下泰裕リーダーのもとで、暴力があった時の通報窓口の設置と手続きの整備、暴力根絶の指導者に対する周知、セクハラ・ガイドラインの設定などを行ってききましたが、これらはいずれも「暴力という負（マイナス）の部分はなくそう」ということが趣旨であり、「礼節や品格などの正（プラス）の部分」を伸ばそうという意味合いが足りませんでした。このため、今年度からは「暴力の根絶」プロジェクトが柔道MINDプロジェクト特別委員会と名前を改め、活動内容も積極的に広げていくことになったものです。

暴力、暴言、セクハラ、パワハラ、不適切な指導をしない事などは柔道をする者にとって当然のことです。これからは「柔道MIND」を心がけ、ともにその先を目指し新しい柔道界を築きましょう。

柔道MINDプロジェクト特別委員会